

一切経堂の彫工は誰か？

享保7年（1722）11月、中興第一世照範上人の建立した「一切経堂」（いっさいきょうどう）の正面左右と両側面に彫刻をはめ込んだ火頭窓四面がある。

作品銘はないが、嶋村圓鉄の刀と推定されている。（『新修成田山史』より）

上記の様な記述があるが、はたして彫工は嶋村圓鉄なのか？

結論から言うと**嶋村圓鉄**ではない。

一切経堂は最初に建立されたのは1722年であるが、この二年前（1720年）に嶋村圓鉄は亡くなっているため火頭窓四面は彼の作ではないだろう。彼は亡くなる四、五年前には現役を引退しているようだ。1716年以降の作品はない。

お墓は**雨引観音**（茨城県桜川市）にある。

嶋村圓鉄ではないとしたら彫工は、いった誰なのか？

一切経堂の火頭窓の彫刻は1722年建立時には、八面全てに彫刻は施されていたと推測する。

1809年の再建時に一切経堂の火頭窓八面の内傷みの激しい彫刻四面を除き、再建した一切経堂の前部の火頭窓に移設し後方四面の火頭窓は彫刻なしであったと思われる。

この様な推測のもと前部四面の火頭窓は、建立時の作であろうと思われる。

以上のことから彫工は嶋村圓鉄から「嶋村家」を名跡相続した**三代目唐四郎嶋村俊実**であろう。

後方四面の火頭窓は、2010年塚原桂昌氏の作である。彼は総門の彫刻もリーダーとして手がけた現在の名工（彫刻家）である。彼は十六体の獅子頭の内、阿吽の3対6体を製作した。

なお総門の彫刻は現在の名工、塚原氏・福島氏・北沢氏の3名により製作されたものである。

三名とも現役の東京在住の彫刻家であります。（2016年現在）

一切経堂は1809年に再建されているので、火頭窓以外の彫刻は年代的におそらく六代目嶋村俊規の作であろうと思われます。

蛇足ではあるが阿形と吽形といえ、仁王像や狛犬を思い浮かべると獅子頭にも勿論阿形と吽形があります。一切経堂の獅子頭は阿吽がはっきりとわかるので是非確認して欲しい。

又三重塔の漢・麒麟・龍や鳥にも阿吽がある。楽しんで欲しいものです。

成田山には名人と言われた二代目嶋村圓鉄の作は、光明堂と三重塔に見られます。

嶋村圓鉄「1720年5月8日没」（1688から1716年頃活躍した**名人と呼ばれた人物**）

雨引山楽法寺（雨引観音）にお墓があります。

元禄（1686～1703）宝永（1704～1710）正徳（1711～1715）

雨引山楽法寺（雨引観音）（アマビキサンラクホウジ・あまびきかんのん）

茨城 > 常総・結城・桜川 茨城県桜川市本木1

創建年代 :586年

雨引観音とも呼ばれ中国から帰化した法輪独居居士が587年に開山したと伝えられる古刹です。

聖武天皇、光明皇后の帰依が厚く、その後、弘法大師によって真言宗の道場となりました。

現在は安産子育ての霊場として広く知られる関東屈指のお寺です。

本尊延命観世音菩薩は国の重要文化財であり、坂東24番札所としても有名です。

梅雨の季節に咲く3000株の紫陽花は人気があります。